

## セルフ・エスティーム得点による 看護系短大生の理想の看護婦イメージの分析

小林千世<sup>1)</sup>, 曾根原純子<sup>2)</sup>

### **Analysis of nursing student's ideal image of the Nursing profession by the Self-Esteem Score**

This study has dual purposes. One is to analyze the nursing student's ideal image of the Nursing profession by the Self-Esteem Score. The other is to examine the relationship between the nursing student's ideal image of the Nursing profession and self-esteem. The following results were obtained :

1. The nursing student's ideal image of the Nursing profession is positive, regardless of the Self-Esteem Score.
2. The Self-Esteem high score group has an ideal image of the Nursing profession, which suggests a positive attitude to the profession. In addition, their expectations go beyond the actual demands of the profession.
3. The Self-Esteem low score group has an ideal image of the Nursing profession, which suggests a rational attitude. It is also possible that they may experience a "reality shock".
4. Self-esteem is indicative of an ideal image of the Nursing profession because of the different image between the Self-Esteem high score group and the Self-Esteem low score group.

#### **Key Words :**

Ideal image of Nursing (理想の看護婦イメージ), Self-esteem (自尊感情), Self-Esteem Scale and Score (自尊感情測定尺度, 得点), Burnout (燃えつき症候群), Nursing students (看護学生)

#### はじめに

イメージは具体的実証的な知識よりも直観的感情的な印象によって形成される「考え、

態度、概念」<sup>1)</sup>を意味する。そして人間の行動はイメージに依存し、イメージが変わればそれに応じた行動をするようになる<sup>2)</sup>と考えられる。そのために看護教育においては、対

1) 信州大学医療技術短期大学部; KOBAYASHI Chise, Dept. of Nursing, School of Allied Medical Sciences, Shinshu Univ.

2) 日本赤十字看護大学看護研究科; SONEHARA Junko, Master student, Japanese Red Cross College of Nursing.

象である学生が看護あるいは看護婦に対しどのようなイメージを持っているか把握し、理解することが必要であると考えられ、数多くの研究がなされてきた<sup>3)4)5)6)</sup>。筆者らは看護系短大生が専門教育を受けるプロセスの中でどのようにイメージを変化させているのかを明らかにすることを目的として研究を進め、理想の看護婦像は人間性・やりがい・就労状況・専門性などの因子から構成されているのではないかと考えるようになった<sup>7)8)9)10)11)12)13)14)</sup>。看護婦を将来の職業として選択した学生にとって理想の看護婦は目標であり理想とする自己像である。理想とは観念においてのぞましい条件を備えた状態であるため<sup>15)</sup>、人間性・やりがい・就労条件・専門性などの因子で構成される看護婦理想像には、学生の職業に対する意識や価値観が反映していると考えられた。

職業に対する意識や価値観、職業選択には自尊感情が関連する<sup>16)</sup>と言われ、看護職などで健康上の問題として、ひいては看護ケアの質の低下の問題として注目される Burnout も自尊感情の低くなった状態である<sup>17)</sup>と言われている。自尊感情とは自己評価の感情であり、人間の社会的行動を規定する重要な要因である<sup>18)</sup>。そこで自尊感情が理想の看護婦イメージに関連する要因の一つであると考え、今回は自尊感情を示す Self-Esteem 得点（以下 SE 得点）により理想の看護婦イメージを分析し、理想の看護婦イメージと自尊感情の関連を検討したいと考える。

## 方法

### 1. 調査対象

信州大学医療技術短期大学部1994年度3年次生、1995年度3年次生、1996年度1年次生、2年次生、3年次生のうち調査に協力が

得られた学生330名。

### 2. 調査方法

直接配布、直接回収で質問紙調査を実施した。

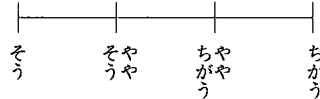
### 3. 調査内容

#### (1) 属性

学年、入学動機、現在の看護婦志向、将来

次の項目についてあなた自身にどの程度当てはまるか。尺度上の該当する項目に○を付けなさい。

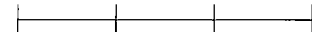
(1)私はすべての点で自分に満足している。



(2)私はときどき自分がまるでだめだと思う。



(3)私は自分にはいくつか見どころがあると思っている。



(4)私はたいていの人がやれる程度には物事ができる。



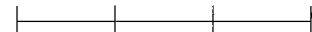
(5)私にはあまり得意に思うことがない。



(6)私は時々、たしかに自分が役立たずだと感じる。



(7)私は少なくとも、自分が他人と同じレベルの立つだけの価値のある人間だと思う。



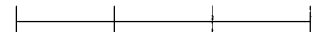
(8)もう少し自分を尊敬できたならばと思う。



(9)いつでも自分を失敗者だと思いがちだ。



(10)私は自分に対して前向きな態度をとっている。



(注) (1)×(3)×(4)×(7)×(10)は左端が4点、(2)×(5)×(6)×(8)×(9)は右端が4点

図1 使用したSE尺度

の看護婦志向、両親の職業、生活形態、自分および近親者の入院経験の有無、近親者の死亡経験の有無、高校時代の1日看護婦体験の有無の9項目

(2) Self-Esteem 測定尺度 (以下 SE 尺度)

Rosenberg.M. の作成した SE 尺度を星野の邦訳<sup>19)</sup>に基づき菅が日本語版に適用した尺度<sup>20)</sup>を使用した (図1)。

(3) 理想の看護婦イメージ

SD法を用い20形容詞対7段階評定で調査した

4. 分析方法

(1) SE 尺度は、質問10項目の合計得点(最低点10点, 最高点40点)を算出してSE得点とし、対象の傾向を知るために属性ごとの平均点を t 検定により比較した。

(2) 理想の看護婦イメージは、20の形容詞対を肯定的イメージと否定的イメージ間の7段階評定に7点から1点までの点数を与え得点化し、平均値によりプロフィールを作成。

また、20形容詞対について因子分析(主因子解, バリマックス回転)を行った。

(3) SE 得点により [平均得点 - 1 標準偏差値] 未満を低得点群 (18点未満で以下 L 群), [平均得点 + 1 標準偏差値] 以上を高得点群 (29点以上で以下 H 群) として, 比較群を設定した。

(4) L 群・H 群の背景について差がないことを明らかにするためにカイ 2 乗検定を用い属性について比較群を比較した。

(5) 理想の看護婦イメージと SE 得点の関連を検討するために, 比較群の形容詞対・因

表1 対象の属性

学年	1年次	2年次	3年次		
n = 330	73 22.1%	67 20.3%	190 57.9%		
入学動機	看護婦	保健婦	助産婦	養護教諭	その他
n = 306	155 50.7%	72 23.5%	21 6.9%	33 10.8%	25 8.2%
現在の希望	看護婦	保健婦	助産婦	養護教諭	その他
n = 294	133 45.2%	64 21.8%	26 8.8%	27 9.2%	44 15.0%
将来の希望	看護婦	保健婦	助産婦	養護教諭	その他
n = 290	137 47.2%	70 24.1%	28 9.7%	28 9.7%	27 9.3%
両親の職業	医療福祉関係	その他			
n = 328	79 24.1%	249 75.9%			
生活形態	一人暮らし	家族と同居	その他		
n = 328	243 74.1%	73 22.3%	12 3.7%		
自分および近親者の入院経験	有り	無し			
n = 330	272 82.4%	58 17.6%			
近親者死亡の経験	有り	無し			
n = 328	237 72.3%	91 27.7%			
1日看護婦体験	有り	無し			
n = 330	176 53.3%	154 46.7%			

表2 SE 得点

	n	平均値	標準偏差
全体	295	23.68 ±	5.23
L群	48	15.33 ±	2.20
H群	52	31.17 ±	2.05

子得点の平均値を t 検定により比較した。

## 結 果

### 1. 学生の背景

対象の属性は表1に示した。

### 2. SE 得点

全対象の平均点は23.68±5.23点(表2)。青年期は25点前後<sup>21)</sup>、菅らの調査では女子短大群が25.76±4.79点、高等看護学校群は25.26±5.50点という報告<sup>22)</sup>があり、それらと比較すると本対象の平均点はそれらより低値を示していた。

自尊感情は自己に対する他者の態度や評価、自己の行動やその結果についてどのような帰属を行うか、あるいは援助行動などによって変容すると考えられている<sup>23)</sup>。学生の属性は、自尊感情の変容に影響を与えると考えられる学生の実生活環境や経験の一部であると思われるため、属性9項目についてSE得点をt検定により検定した(表3)。しかし有意差が認められた項目はなく、本対象のSE得点は属性による差はなかった。

### 3. 理想の看護婦イメージ

形容詞対ごとの平均値は表4に、イメージのプロフィールは図2に示した。すべての形容詞対の平均値は4.0以上で学生は理想の看護婦に対して肯定的なイメージを持っており、先行研究<sup>24)</sup>の結果と同様の傾向を示していた。最も平均値が高かったのは「親切的」であり、次いで「意欲的な」「あたたかい」だった。その他平均値が6.0点代だった形容

表3 属性ごとのSE得点

		平均SE得点
学年	1年次	24.94
	2年次	23.35
	3年次	23.27
入学動機	看護婦	22.99
	保健婦	24.41
	助産婦	23.30
	養護教諭	23.20
	その他	24.29
現在の看護職志向	看護婦	23.51
	保健婦	23.43
	助産婦	24.59
	養護教諭	22.91
	その他	22.55
将来の看護職志向	看護婦	23.74
	保健婦	23.35
	助産婦	24.32
	養護教諭	23.27
	その他	21.71
生活形態	一人暮らし	23.71
	家族と同居	24.28
	その他	20.27
自分あるいは近親者の入院経験	有り	23.92
	無し	22.51
近親者の死亡の経験	有り	23.65
	無し	23.74
1日看護婦体験	有り	23.77
	無し	23.56
両親の職業	医療福祉関係	24.05
	その他	23.54

t 検定有意差無し

詞対は「清潔な」「積極的な」「明るい」「慎重な」。5.0点代未満だったのは最も平均値が低い「理性的な」だった。

因子分析は主因子解、バリマックス回転で行った。固有値の衰退状況および解釈のしやすさを考慮して4因子を抽出し、それぞれ絶対値で負荷の高い項目に注目して次のように命名した(表5)。命名に際しては、看護婦

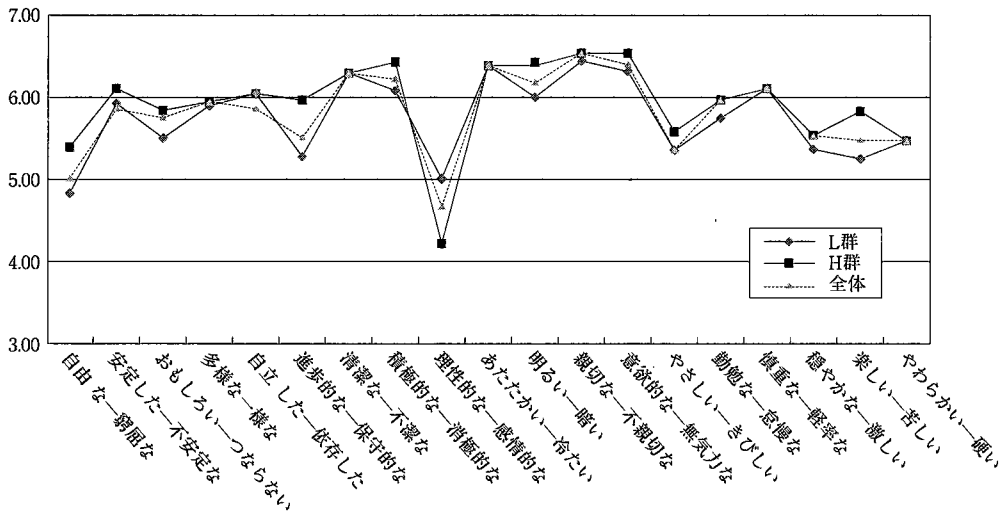


図2 理想の看護婦イメージのプロフィール

表4 形容詞対の比較

形容詞対	全 体		L 郡 n=48		H 郡 n=52		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自由な-窮屈な	5.02 ± 1.39	4.83 ± 1.33	5.40 ± 1.40	2.085 *			
安定した-不安定な	5.89 ± 1.20	5.96 ± 1.27	6.12 ± 1.08				
おもしろい-つまらない	5.78 ± 1.02	5.50 ± 1.24	5.85 ± 1.09				
多様な-様な	5.94 ± 1.11	5.90 ± 1.23	5.94 ± 1.15				
自立した-依存した	5.87 ± 1.08	6.04 ± 0.94	6.04 ± 1.19				
進歩的な-保守的な	5.52 ± 1.23	5.27 ± 1.32	5.96 ± 0.95	2.988 **			
清潔な-不潔な	6.26 ± 1.12	6.27 ± 1.05	6.29 ± 1.13				
積極的な-消極的な	6.24 ± 0.85	6.08 ± 1.01	6.42 ± 0.75				
理性的な-感情的な	4.67 ± 1.34	5.00 ± 1.15	4.21 ± 1.58	2.874 **			
あたたかい-冷たい	6.36 ± 0.87	6.35 ± 0.84	6.39 ± 0.97				
明るい-暗い	6.19 ± 0.87	6.00 ± 0.88	6.42 ± 0.78	2.562 *			
親切的な-不親切的な	6.50 ± 0.68	6.46 ± 0.82	6.54 ± 0.64				
意欲的な-無気力な	6.41 ± 0.70	6.29 ± 0.80	6.54 ± 0.70				
やさしい-きびしい	5.37 ± 1.34	5.35 ± 1.38	5.58 ± 1.38				
勤勉な-怠慢な	5.93 ± 0.90	5.75 ± 0.98	5.96 ± 0.93				
慎重な-軽率な	6.12 ± 0.86	6.10 ± 0.97	6.10 ± 0.91				
穏やかな-激しい	5.55 ± 1.28	5.38 ± 1.45	5.52 ± 1.52				
楽しい-苦しい	5.50 ± 1.29	5.25 ± 1.50	5.83 ± 1.28	2.079 *			
やわらかい-硬い	5.40 ± 1.16	5.40 ± 1.13	5.46 ± 1.21				
深い-浅い	5.71 ± 1.00	5.60 ± 1.07	5.67 ± 1.12				

\*\* p<0.01, \* p<0.05

表5 因子分析

因子名 形容詞対	f 1 人間性	f 2 就労条件	f 3 就労意欲	f 4 専門職性
親切な-不親切な	0.750	-0.217	0.094	-0.090
明るい-暗い	0.708	-0.250	0.140	0.159
穏やかな-激しい	0.704	-0.040	-0.121	-0.100
あたたかい-冷たい	0.691	-0.169	0.231	-0.022
やわらかい-硬い	0.566	-0.281	0.148	-0.050
清潔な-不潔な	0.561	-0.298	0.053	0.096
やさしい-きびしい	0.541	0.072	0.010	-0.234
意欲的な-無気力な	0.526	-0.181	0.498	-0.065
自由な-窮屈な	0.236	-0.791	-0.011	0.006
安定した-不安定な	0.254	-0.586	-0.031	-0.260
おもしろい-つまらない	0.302	-0.572	0.261	-0.079
楽しい-苦しい	0.507	-0.549	0.087	-0.049
進歩的な-保守的な	0.008	-0.529	0.393	-0.171
深い-浅い	0.080	0.049	0.687	-0.175
多様な-一様な	-0.118	-0.326	0.650	0.038
慎重な-軽率な	0.286	0.166	0.584	-0.143
積極的な-消極的な	0.361	-0.248	0.508	-0.102
理性的な-感情的な	0.044	0.035	0.038	-0.807
自立した-依存した	-0.075	-0.377	0.203	-0.664
勤勉な-怠慢な	0.405	-0.033	0.389	-0.412
因子負荷量の2乗和	4.113	2.565	2.286	1.544
因子の寄与率 (%)	20.566	12.824	11.432	7.720
累積寄与率 (%)	20.566	33.390	44.822	52.541

イメージに関する先行研究<sup>25)26)27)28)</sup>や仕事に関する志向<sup>29)</sup>や価値観<sup>30)31)</sup>を参考にして因子名を検討した。また、研究者間で協議して筆者らの研究結果<sup>32)33)34)35)36)37)38)39)</sup>に類似する形容詞対から構成される因子には類似あるいは同じ因子名を用いた。累積寄与率は52.54%である。f 1は「親切な・明るい・穏やかな・あたたかい・やわらかい・清潔な・やさしい・意欲的な」から健康的で白衣の天使を思わせる看護婦のキャラクターが連想されたため人間性。f 2は「自由な・安定した・おもしろい・楽しい・進歩的な」からコーン=クスラーの仕事の構造概念<sup>40)</sup>にある「仕事の圧力」や「外部的な危険/報酬」が連想されたため就労条件。f 3は「深い・多様な」から前出の仕事の構造概念にある「仕

事の複雑性」,「慎重な」から「仕事の厳格性」が連想され,「積極的な」から就労意欲。f 4は「理性的な・自立した」から専門職としての看護婦,「勤勉な」から看護管理者の個人歴から見る看護職の特性<sup>41)</sup>が連想されたことから専門職性と命名した。

#### 4. 比較群の背景

L群は48名(16%)でSE得点の平均得点は $15.33 \pm 2.20$ 点, H群は52名(18%)で平均得点は $31.17 \pm 20.4$ 点である(表2)。それぞれの群の平均得点は, 菅が低得点の目安とした20点以下と高得点の目安とした30点以上<sup>42)</sup>に該当した。また, L群・H群の属性についてカイ2乗検定を用いて比較した結果(表6), 2群間に有意な差は認められず, 2群の背景に特徴的な傾向はなかった。

表6 比較群と属性に関する検定

	カイ2乗値	Cramerの係数
学年	6.138	0.248
入学動機	3.411	0.198
現在の希望	5.365	0.256
将来の希望	2.546	0.176
生活形態	3.337	0.184
自分および近親者の入院経験	2.290	0.151
近親者の死亡の経験	0.073	0.027
1日看護婦体験	0.317	0.056
両親の職業	0.510	0.072

有意差無し

## 5. イメージの比較

### (1) 形容詞対の比較

結果は表4に示した。L群、H群の得点を比較すると、「理性的な」「自立した」「慎重な」の3形容詞対を除き、H群の方が平均点は高得点である。有意差が認められたのは「進歩的な」「理性的な」「自由な」「明るい」「楽しい」の5形容詞対であり、「理性的な」だけが、L群の得点が高かった。看護婦の理想像をH群の方が「より進歩的で明るく楽しく自由な」イメージとしてとらえており、L群はH群より「理性的な看護婦」をイメージしていた。

### (2) 因子得点の比較

結果は表7に示す。2群間で因子得点に有意差がみられたのはf4専門職性で、H群の方が因子得点は高く、H群の方が理想の看護婦専門職性を否定的とらえていた。

## 考 察

### 1. 学生の自尊感情

学生のSE得点は他の調査結果と比較して低く、属性による有意な差も認められなかった。このことから、対象となった学生はその背景にかかわらず、自尊感情がやや低い状態であると考えられた。しかし今回の調査では比較検討していないため、有意に低い状態であるか、あるいはその理由については明らかではない。

### 2. 学生の理想の看護婦イメージ

形容詞対の平均値から、学生は理想の看護婦に対して肯定的なイメージを持っており、中でも「親切で意欲的であたたかく、清潔で積極的で、明るく慎重な」イメージが高く、肯定的ながらも「理性的な」イメージは低いと考えられた。また、因子分析の結果から、理想の看護婦イメージはf1人間性・f2就労条件・f3就労意欲・f4専門職性の因子から構成されると考えられた。4因子の中でf2就労条件とf4専門職性を命名する際に注目した形容詞対は、マイナスの負荷を示しており、学生は理想の看護婦の就労条件や専門

表7 因子得点の比較

因子	L群 n=48		H群 n=52		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
f1人間性	-0.174	± 1.168	0.199	± 1.021	
f2就労条件	0.049	± 0.891	-0.034	± 1.098	
f3就労意欲	0.039	± 1.131	-0.270	± 0.959	
f4専門職性	-0.299	± 0.846	0.199	± 1.203	2.408**

\*\* p<0.01

職性を否定的にとらえていることが示唆された。一般的に看護婦の就労条件は3 Kとも8 Kとも言われる情報が氾濫しており、Burnoutの研究でも看護婦は過度で煩雑な業務、不明瞭な役割と自立性を欠く仕事などのストレスが多くある<sup>43)</sup>と報告されている。このような情報が影響しているために、学生は理想の看護婦に対して就労条件を否定的にイメージしていると考えられた。

看護婦の専門職性について学生は、学内での専門教科の教育や実習の中で、専門的な知識や技術を必要とする日常生活の世話や健康に関する指導など看護独自の業務などを学習し、専門職としての看護婦をイメージしていくと思われる。しかし一般の人にとって病院で働く看護婦の仕事は、診療業務が大きなウェイトを占め、専門的能力を必要とする日常生活の世話や健康に関する指導といった役割は意外と知られていないという報告<sup>44)</sup>があり、学生にとって看護婦の専門性は具体的にイメージしにくく、理想の看護婦に対して専門職性を否定的にイメージしてしまうのではないかと考えられた。

### 3. L群・H群でイメージを比較する意味

青年期は職業生活に必要な知識や技能を身につけたり、職業に関する価値観の個人への内面化といった職業生活への準備を行う時期であり<sup>45)</sup>、看護系短大生の場合には在学中がその時期にあたる。準備過程では自己と職業についての関係吟味が必要であり、そのことがその後の適応や自己現実などの問題と関係する重要な要素となる<sup>46)</sup>。自尊感情は自己評価の感情であり個人の生き方、例えば職業に対する意識や価値観、職業選択にも影響を与えるものであるために、職業との関係の吟味などの職業に対する準備過程にも大きく影響を与えると考えられる。

自尊感情は低すぎると劣等感や不適応感を抱きやすく<sup>47)</sup>、Burnoutに陥りやすい傾向があり<sup>48)</sup>、逆に高すぎると現実吟味力の欠如や過剰補償などの問題を持つ場合が多い<sup>49)</sup>とされている。自尊感情が低い群と高い群を示すL群・H群もこのような傾向を持っていると考えられる。

理想の看護婦イメージは「人間性」「就労条件」「就労意欲」「専門職性」の因子で構成されることが明らかになり、学生の職業に対する価値観や態度、姿勢が影響すると考えられる。そこで2群の理想の看護婦イメージは、自尊感情の高低が影響し、職業に対する価値観、態度、姿勢、理想の自己像などの差を示唆するイメージであると予測された。

### 4. イメージの比較

SE得点の高い人は、自己の選択した将来の職業に対しより積極的な関わりをする<sup>50)</sup>といわれているが、H群の理想の看護婦イメージは「進歩的で明るく楽しく自由な」というように、選択した職業への積極的な関わりを示唆していると考えられた。また、SE得点の高い人は現実吟味力に問題がある可能性もある<sup>51)</sup>が、有意に得点の高かった「進歩的」「自由な」「楽しい」の3形容詞は因子分析でf2就労条件と命名された因子に負荷量が高い形容詞対である。一般的に言われている看護婦の就労条件などを考慮すると、H群は看護婦理想像に対して就労条件などについて現実以上に期待が高いイメージを持っている可能性があるとも考えられた。

一方、L群は「理性的な」の得点が高く、H群より理性的な看護婦理想像をイメージしていると考えられた。理性的とは思慮的に行動する能力に従って判断・行動するさま<sup>52)</sup>のことであるが、不安が強く劣等感を持ちやすいと考えられるL群が、より理性的な看護



婦像を期待したり目標としていることは興味深い結果であると思われた。

看護職の場合は、療養上の世話と診療上の介助の区別が困難で、看護独自の仕事をしている実感を持ちにくく、また社会的地位も、専門職でありたい、あるべきであるという理想自己との葛藤があり、意思決定においても自立性を欠き専門職としてのアイデンティティが脅かされることがある<sup>53)</sup>と言われている。

H群は、知識や体験、情報などが理想の看護婦専門職性のイメージに反映しており、L群より専門職性を否定的に捉えていると考えられた。理想的な期待感と現実とのギャップからリアリティショックが生じる<sup>54)</sup>。他者の評価を低く受け止める傾向があるL群は、H群より専門職性を認めていることから、理想の看護婦の専門職性に対する期待が高いイメージであり、実習中に現実と理想とのギャップから一層自尊感情を低下させたり、リアリティショックを受ける可能性を持つイメージではないかと考えられた。

#### 5. 自尊感情とイメージとの関連

L群とH群の理想の看護婦イメージに差が認められることから、SE得点は理想の看護婦イメージに関連する要因の一つであると考えられた。特に、イメージを構成する因子や関連する形容詞対などから看護婦の専門職性や就労条件、人間性などとの関連が示唆された。しかし、今回関連の認められた5形容詞対や因子からは学生のイメージの差を具体的に明らかにすることは困難であると考えられた。

#### まとめ

看護系短大生を対象に自尊感情を示すSE得点の高得点群、低得点群で理想の看護婦イメージを比較し、イメージと自尊感情の関連

を検討した結果以下のことが明らかになった。

1. 理想の看護婦イメージはSE得点にかかわらず肯定的なイメージである。
2. 自尊感情の高い群は、選択した将来の職業に対して積極的な関わりを示唆すると考えられる理想の看護婦イメージを持ち、また、看護婦の就労条件などについて現実以上に期待の高いイメージである可能性がある。
3. 自尊感情の低い群は、高い群より理性的な理想の看護婦イメージを持ち、それにより実習中などに自尊感情を低下させたり、リアリティショックを受ける可能性を持つ。
4. 自尊感情の低い群と高い群の理想の看護婦イメージには差が認められることから、自尊感情が理想の看護婦イメージに関連する要因の一つであることが示唆された。

#### 謝辞

本研究を実施するにあたり調査に快く協力して下さった学生の皆様に心よりお礼申し上げます。また、本論文作成に際し、ご指導下さいました方々に深く感謝する。

#### 文献

- 1) 東洋他：心理用語の基礎知識，有斐閣ブックス，522，1987。
- 2) ボウルディング，K.E.，大川信明訳：ザ・イメージ，誠信書房，4，1979。
- 3) 石塚百合子他：看護婦イメージの研究，看護教育，23（7），446-453，1982。
- 4) 謝花美佐子他：看護学生の看護婦イメージの学年別による検討—動機と意思との関連性—，看護教育，25（2），89-94，1984。
- 5) 佐藤和子他：短大生の意識調査（第2報）—看護婦イメージに関する検討—，聖マリア医学，15（2），226-227，1988。
- 6) 真鍋淳子他：看護学生の看護婦イメージ

- の研究—大学生と短大生の比較—, 看護教育, 35 (6), 427-433, 1994.
- 7) 曾根原純子, 小林千世: 看護学生の看護婦イメージに関する研究—理想と現実の学年別比較—, 信州大学医療技術短期大学部紀要, 21, 77-90, 1995.
- 8) 小林千世, 曾根原純子: 看護学生の看護婦イメージ—理想像の年次変化—, 日本応用心理学会第63回大会発表論文集, 45, 1996.
- 9) 有賀千世他: 看護学生の看護婦イメージに関連する要因の分析 (2), —看護専修学校の学年別による比較—, 日本応用心理学会第62回大会発表論文集, 81, 1995.
- 10) 三上れつ他: 看護学生の看護婦イメージに関する要因の分析 (1) —看護教育課程別新入生の比較—, 日本応用心理学会第62回大会発表論文集, 80, 1995.
- 11) 有賀千世他: 看護学生の看護婦イメージに関する研究 (6) —職業観との関連性の検討—, 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 573, 1995.
- 12) 三上れつ他: 看護学生の看護婦イメージに関する研究 (3) —看護系大学3年次生における理想像・現実像・自己像との比較—, 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 570, 1995.
- 13) 布施淳子他: 看護学生の看護婦イメージに関する研究 (4) —看護系大学2年次生における理想像・現実像・自己像との比較—, 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 571, 1995.
- 14) 曾根原純子他: 看護学生の看護婦イメージに関する研究 (5) —Self-Esteem (SE) 得点との関連性の検討—, 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 57572, 1995.
- 15) 新村出編: 広辞苑第4版, 2683, 岩波書店, 東京1993.
- 16) 遠藤辰雄編: アイデンティティの心理学, 110-117, ナカニシヤ出版, 京都, 1988.
- 17) 南裕子: 燃えつき現象の精神看護学的推論, 看護研究, 21 (2), 12-19, 1988.
- 18) 前掲書16)
- 19) 菅佐和子: SE (Self-Esteem) について, 看護研究, 17 (2), 21-27, 1984.
- 20) 遠藤辰雄: セルフエスティームの心理学, 26-27, ナカニシヤ出版, 京都1992.
- 21) 前掲書19)
- 22) 菅佐和子: 大学生のSelf-Esteem についての実証的研究 (1), 愛知医大誌, 9, 141-147, 1981.
- 23) 前掲書20)
- 24) 前掲書3)
- 25) 前掲書3)
- 26) 前掲書4)
- 27) 前掲書5)
- 28) 前掲書6)
- 29) 堀洋道他: 心理尺度ファイル, 垣内出版, 1996.
- 30) 森永康子: 大卒・短大卒女性の仕事に関する価値観, 教育心理学研究, 45 (2), 166-172, 1997.
- 31) 草刈淳子: 看護管理者のライフコースとキャリア発達に関する実証的研究, 看護研究, 29 (2), 31-46, 1996.
- 32) 前掲書7)
- 33) 前掲書8)
- 34) 前掲書9)
- 35) 前掲書10)
- 36) 前掲書11)
- 37) 前掲書12)
- 38) 前掲書13)
- 39) 前掲書14)
- 40) 三隅二士夫編著: 働くことの意味, 有斐閣社, 1987.
- 41) 前掲書31)
- 42) 前掲書19)
- 43) 稲岡文昭: 米国におけるBurnoutに関する概要, 研究の方向, 今後の課題, 看護研究, 21 (2), 20-26, 1988.
- 44) 正田美智子他: 高校生の看護婦に対する意識調査, 看護教育, 34 (3), 192-198, 1993.

- |  |            |
|--|------------|
| 45) 吉田裕, 平井久, 長島正編: 現代青年の意識と行動, 誠信書房, 1981. 29) 前掲書16) | 51) 前掲書16) |
| 46) 前掲書45)   | 52) 前掲書15) |
| 47) 前掲書16)   | 53) 前掲書25) |
| 48) 前掲書17)   | 54) 前掲書17) |
| 49) 前掲書16)   |            |
| 50) 前掲書20)   |            |

受付日: 1997年10月1日

受理日: 1997年11月28日